

地——小説ディエンベンフー』一九六八年 東邦出版社。

10 Honda Katuti: *Vilaĝoj en Baŭkampo* (『戦場の村』) 一九七〇年 日本エスペラント図書刊行会。

11 『朝日新聞』一九六七年十一月十二日。

12 由比忠之進、宮本正男訳『ジョンソン大統領への抗議文』『世界』一九六八年一月号 岩波書店。のち鶴見俊輔編『平和の思想』一九七〇年 筑摩書房版に収録。

13 蔵園正枝「由比忠之進の生涯」『思想の科学』一九七〇年十月号 同社、および、同「わが父由比忠之進」*La Movado* 一九六九年十一月号。

14 田中貞美「満州エスペラント運動史 三」*La Movado* 一九六九年四月号。

15 室謙二「由比忠之進」高橋和巳編『明日への葬列』一九七〇年 合同出版。これは『思想の科学』にまず発表されたと記憶する。

16 蔵園正枝「わが父由比忠之進」。

17 前田俊彦「由比さんの五周年におもう」*La Movado* 一九七二年十一月号。

18 アリス・ハーズ著、芝田進午編訳『ある平和主義者の思想』一九六九年 岩波書店。同『われ炎となりて』一九六六年 弘文堂。同増補版 一九六八年 文理書院。

19 福田正男訳「由比忠之進さんの日記」『週刊朝日』一九六七年十二月一日号。

20 『週刊朝日』一九六七年十一月二十四日号。

21 『朝日ジャーナル』一九六七年十一月二十六日号。

22 *Respondej leteroj de la centra komitato de la Japana Komunista Partio al la centra komitato de la Komunista Partio de Sovetunio* (『日本共産党中央委員会よりソ連共産党中央委員会への返書』) 1965, *Fremdlingva Eldonejo, Pekino*。

23 宮本正男「エスペラントは民衆語でなくか」*La Movado* 一九七三年一月号。Miyamoto Masao: *Ĉu esperanto estas vere internacia lingvo?* (『エスペラントは本当に国際語だろうか?』) *Omni-buso N-ro 5*, 1978. 奈良広志「柳田国男とエスペラント」『柳田国男研究』第四号 一九七四年一月。栗栖継「世界語・国際語・エスペラント」『文芸』一九七三年十月号。藤本達生「『民衆語』の民とは何か」*La Movado* 一九七四年五月号。

参考文献——全体を通じて

藤間常太郎『日本国際語思想史』一九四〇年 大阪エスペラント文庫。

小坂猗二『日本エスペラント運動史料 一』一九五六年 日本エスペラント運動五〇周年記念行事委員会。同『日本エスペラント運動年表』一九五八年 第四五回日本エスペラント大会準備委員会。

L. Kokény, V. Bleier: *Enciklopedio de Esperanto* (『エスペラント百科事典』) 1934—35. *Litteratura Mondo*, Budapest.

Miyamoto Masao: *Historio de La Japana Esperanto-Movado* (『日本エスペラント運動史』) 1969. *L'Omni-buso*, Kioto.

武藤丸楠編『伊井迂氏談論集 日本エスペラント学事始』一九三二年 鉄塔書院。

宮本正男・朝比賀昇『日本エスペラント文献目録』(一九〇六—一九四五) 一九七〇年 日本エスペラント図書刊行会。

朝比賀昇・峰芳隆『日本エスペラント文献目録』(一九四六—一九七二) 一九七三年 エスペラント普及会。

直接関係を持たぬが参考になったものとして

平野謙・蔵原惟人・小田切秀雄・野間宏・竹内好『プロレタリア文学大系』一九五五年 三一書房。
荒正人・本多秋五・平野謙・佐々木基一『日本プロレタリア文学運動史』一九五五年 三一書房。

エスベラント運動史 小年表

本書に關係ある部分だけ。『』は書名、ま
たは雑誌・新聞名。『』は論文その他。

一八八七
七月 ザメンホフ『國際語』(エスベラント)を発表。
一八九一
丘淺次郎ドイツ留学中に学習。
一九〇二
下瀬謙太郎学習。
一九〇三
黒板勝美・ガントレット・神保格・武藤於菟・福田国
太郎・樋口勘次郎・吉野作造ら学習。
五月 吉野作造『世界普及語エスベラント』(『新人』
一九〇五)
『平民新聞』終刊。斯波貞吉・山路愛山ら国家社会党
結成。日露戦争講和条件反対で日比谷焼打ち騒動。
第一次ロシア革命)
ガントレット通信教育をはじめめる。

三月 堺利彦「エスベラント語の話」(『直言』)。
八月 第一回世界エスベラント大会(フランス)。
一九〇六
(日本社会党成立。電車賃値上反対の東京市民大会の
デモ暴動化、大杉栄ら検挙。呉砲兵工廠のスト暴動
化。夕張・足尾の鉱山労働者の組織化。『社会主義
研究』創刊。『破戒』出版。山川均、平民社入社)
大杉獄中で学習。
六月 日本エスベラント協会創立。
七月 二葉亭四迷『世界語』出版。『ヤバーナ・エス
ベラント』創刊。
九月 大杉を講師にしてエスベラント学校開校。協会
第一回大会(大杉『桃太郎』をエス訳、朗読)。
八十月 『中央公論』にエスベラント講座。
一九〇七

(社会主義運動のサンジカリズム化、直接行動派と議
会政策派の対立開始。日本社会党禁止。足尾・夕
張・三池・別子などの鉱山スト。東京の欧文植字工
欧友会を結成)
四月 大杉入獄、エスベラント学校廃止。
十一月 協会第二回大会。これ以後エスベラント運動
急激に後退。その後九年間大会開催不能に陥る。
山鹿泰治・鳴海要吉(うらぶる)・佐々城佑ら学習。
佐々城帰国。パリで李石曾ら中国人留学生『新世紀』
を創刊。
一九〇八
(社会主義運動衰退。アナキズムへの傾斜強まる。六
月赤旗事件により堺利彦・山川均・大杉栄・大須賀
サトヲ検挙)
『ヤバーナ・エスベラント』休刊。
四月 大杉、中国人留学生に講習会。以後在日中国人
にエスベラントひろまり中国人発行の雑誌にエスベ
ラントの記事多し。
八月 第四回世界エスベラント大会(ドレスデン)に
新村出・黒板勝美出席。
一九一〇
(五月 宮下太吉の検挙を口火にして、幸徳事件の

検挙はじまる。九月 堺利彦ら売文社をおこす。十
二月ごろより赤旗、幸徳両事件の出獄者あいつぐ
が、転向者続出して運動解体)
相坂佑不敬罪で懲役五年。山鹿泰治、協会の無給書記
となる。『ヤバーナ・エスベラント』再刊。大
須賀サトヲ死去。
一九一一
(幸徳事件判決。冬の時代はじまる。平塚らいてうら
青鷲社結成。辛亥革命)
『ヤバーナ・エスベラント』表紙共八ページ、年
六回発行。
一九一二
(東京市電スト、片山潜ら検挙。大杉・荒畑ら『近代
思想』を創刊。共済的労働団体として友愛会成立)
『ヤバーナ・エスベラント』休刊。学習書類も再
版不能。
九月 相坂・山鹿ら宮島實夫らとともにエスベラント
語研究会創立するも間もなく消滅。
一九一三
(憲政擁護運動、東京・大阪・神戸で暴動化し、政府
系の新聞社を襲撃)
台湾で講習会、連温卿ら参加。

八月 師復、広東で『晦鳴録』（ラ・ヴォーチョ・デ・ラ・ポボーロ）を創刊（のちに改題して『民声』）。一九一四

（堺『へちまの花』を創刊。大杉『近代思想』をやめて、『月刊平民新聞』創刊、毎号発禁。片山潜米國へ。デモクラシー運動はじまる。日本 第一次世界大戦に参戦）

山鹿泰治上海に行き『民声』発行に協力。エロシエンコ来日。『ヤバーナ・エスベラントリスト』復刊。千布利雄『エスベラント全経』、黒板ら『エスベラント和訳辞典』出版。

一九一五

（大杉ら『月刊平民新聞』発行不能のため『近代思想』を再刊するが連続発禁。台湾独立運動の判決、死刑九〇三名）

秋田雨雀・比嘉春潮・仲原善忠学習。東京帝大エスベラント会創立。

一九一六

（山川均、売文社に入る。『近代思想』廃刊。吉野作造「憲政の本義を説いてその有終の美をなすの途を論ず」を発表、民本主義運動を展開。大阪で西尾末広ら職工組合期成同志会を組織）

四月 日本エスベラント協会第三回大会。エロシエンコ・秋田雨雀・竹久夢二、水戸へ講演旅行。七月 エロシエンコ、シャム（今のタイ）へ出発。一九一七

（ロシア革命。ストライキ飛躍的に増加。堺『新社会』を創刊し、はじめてレーニンの論文を訳す。在京社会主義者、ロシア革命支持の決議）

四月 ザメンホフ、ワルシャワで死去。

伊東三郎学習。比嘉・伊波普猷ら沖縄で講習会。

一九一八

（米騒動。世界大戦終わる。日本、シベリアへ出兵。大杉・和田久太郎ら労働運動に進出。山川・荒畑ら『青服』創刊、連続発禁で廃刊。福田徳三・吉野ら黎明会を組織。東大卒業生、学生ら新人会を結成）協会の会員数二八六名。

一九一九

（コミンテルン創立。『社会問題研究』『社会主義研究』『我等』『改造』『解放』それぞれ創刊。大原社会問題研究所設立。友愛会改組、大日本労働総同盟友愛会となる。川崎・三菱両工場ストライキ。国際労働会議代表反対運動。朝鮮三・一事件。学生ら「人民の中へ」の運動をはじめ。早大に民人同盟会。中

国五・四運動。大日本国粋会成立）

二月 山鹿泰治、秘密出版で禁固三年。

三月 『我等』に藤沢親雄「エスベラントの沿革」。以後同誌には、エスベラントに関する記事や翻訳ものがたびたび掲載される。

七月 インドから追放のエロシエンコ再び来日。

八月 北一輝『日本改造法案大綱』を書き、エスベラント採用を説く。このころ、吉野作造、日本エスベラント協会入会。

十月 『デモクラシー』に山崎一雄「ザメンホフ博士とエスベラント」。

十二月 協会臨時総会を開き、新たに日本エスベラント学会を創立して、運動の主体とすることを決める。永井叔、竜山連隊で上官反抗事件により検挙。

一九二〇

（日本社会主義同盟創立。大杉、上海で極東社会主義者会議に参加。普選期成全国労働大連盟結成。第一回メーデー。高津正道ら早大曉民会を組織。東大では森戸辰男のクロボキン研究が問題にされる。岩田富美夫ら大化会を組織）

一月 日本エスベラント学会、機関誌『ラ・レビュー・オリエンタ』創刊。福田国太郎、相坂ら『ヴェルダ・

ウトビーオ』をはじめ。

一九二一

（日本社会主義同盟解散させられる。堺・山川・高津ら日本共産党の結成準備。近藤栄蔵、上海でコミンテルンと連絡、帰途検挙。コミンテルン第三回大会に田口運蔵ら出席。日本海員組合創立。友愛会、日本労働総同盟と改称。大本教第一次弾圧。中国共産党創立。第二次『種詩く人』創刊）

三月 相坂らも加わって大阪エスベラント協会創立。

五月 エロシエンコ日本追放、ウラジオ・チタ・ハルビンを経て上海へ。

八月 社会主義的傾向のエスベラントリストら全世界無民族協会（S.A.T.）をブラハで創立。

十一月 『種詩く人』に「エスベラント大会と階級闘争」でサート創立大会を報道。この前後、同誌にはエスベラント関係の記事がたびたびのる。

十二月 曉民共産党事件で、高津・仲宗根源和ら検挙。

三田村四郎・佐々木孝九ら学会へ加入。

一九二二

（モスクワで極東民族大会。『前衛』創刊。日本共産党創立。山川「無産階級運動の方向転換」を発表。対

露非干渉同盟成立。ロシア飢饉救援運動。日本農民組合創立。西光万吉ら全国水平社創立。学生連合会創立。労働運動内の左翼「レフト」を創立。赤化防止団生まれる。

二月 エロシエンコ北京へ、北京大学世界語科の講師となる。魯迅による中国語訳『エロシエンコ童話集』出版。

『種時く人』三月号に「第三インターナショナルとエスベラント問題」。同六月号、九月号にエスベラント講座。

四月 大阪での種時き社講演会に佐々木孝丸「世界主義とエスベラント」。

『改造』八月号エスベラント特集。九月号から十二月号まで、エスベラント講座連載。

十月 第十回日本エスベラント大会、ロシア飢饉救援運動を拒否。台湾エスベラント学会、救援運動の発起団体となり、山口小静、連温卿ら活動。

十二月 大杉バリへ。このため山鹿、北京に潜入し、大杉の旅券獲得に尽力。

冬、山崎一雄モスクワへ。コミンテルンヘレポーターとして行き、のちプロフィンテルンで働く。

一九二五

(第一次共産党事件。関東大震災。これを契機に川合義虎ら労働運動家を殺した亀戸事件、朝鮮人大量虐殺、朴烈事件。早大軍事研究団事件。新人会リベツ化)

三月 山口小静死去。

六月 佐々木・相坂ら『自由エスベラント講義録』(日本エスベラント文化協会)。

七月 大本教、エスベラント普及会創立。これより前、五月、出口王仁三郎の秘書加藤明子、出口の命により学習。

九月 大杉栄暗殺。

一九二四

『マルクス主義』創刊。政治研究会創立。産業労働調査所創立。朝鮮労働総同盟。在日朝鮮労働総同盟。共産党解党決議。『文芸戦線』創刊。

エロシエンコ、クートへの通訳として以後二十七年まで。仙台で開かれた日本エスベラント大会で、はじめてサートの分科会。

『文芸戦線』八月号に「共同戦線とエスベラント」。同九月号に「日本無産階級エスベラントイスト連盟綱領及規約(草案)」。ただし連盟の結成は成らず。

一九二五

〈普通選挙法および治安維持法成立。共産党再建運動はじまる。仲宗根を編集発行名義人として『無産者新聞』創刊。農民労働党結党、即日禁止。全日本無産青年同盟・日本労働組合評議会創立。朝鮮共産党結成。学連第二回大会で全日本学生社会科学連合会と改称。学連事件で第一次検挙。日本プロレタリア文芸連盟創立。〉

佐々城松栄らクララ会設立。佐々木孝丸『文芸戦線』一月号にエスベラント通信により入手の「万国の革命的プロレタリア著作家に敬す」を発表、日本プロレタリア文学運動の国際連帯の最初の動きとなる。学連内のエスベラント結集の試みが行なわれる。

一九二六

〈労働農民党創立。山川イズムから福本イズムへの転換。日本農民党・社会民衆党・日本労働党結党。労働組合統一同盟成立。浜松楽器ストライキ。文部大臣、学生の社会科学研究の絶対禁止を通告。第二次学連事件で武藤丸桶をふくむ三八名検挙。第一回建国祭。〉

『オオモト・インテルナツィア』パリで創刊。

一九二七

〈金融恐慌はじまる。共産党二七年テーゼにより再組

織開始。界・山川・高津ら労働派として結集。対支非干渉同盟成立。第一回汎太平洋労働組合会議。プロ芸術連盟分裂。台湾文化協会、左派がリード。

四月 片山潜、国際語問題について発言。

秋田雨雀、ソ同盟へ国賓として招かれ十月から翌年五月まで滞在。十月 守随一ほか訳『骸骨の舞踏』。

山鹿泰治、国立上海江湾労働大学エスベラント科の講師。

清見陸郎、ザメンホフ訳から『寡婦マルタ』を重訳。

一九二八

『赤旗』創刊。西光万吉・河合秀夫ら労働党より総選挙に立候補。三・一五事件。西光・大栗清実らも検挙。コミンテルン第六回大会。労働党・評議会・青年同盟解散。日本労働組合全国協議会成立。新人会以下各大学の社会科学研究会に解散命令。解放運動犠牲者救援会・全日本無産者芸術連盟(ナツプ)創立。『戦旗』創刊。秋田・伊東・大栗・新島繁・佐々木らのエスベラントが参加して国際文化研究所創立。『国際文化』創刊。

『国際文化』創刊号よりエスベラント関係の記事を多くのせる。

秋田雨雀、モスクワでエスベラントにより「日本プロ

レタリア文学」について放送。片山潜、ソヴェート友の会へのエスベラント導入につき、秋田に協力。比嘉春潮・清見陸郎・永浜寅二郎・大島義夫ら柏木ロンド創立。

一九二九

〔共産党四・一六事件。三田村四郎・高橋貞樹ら検挙。解党派発生。山本宣治暗殺。大山郁夫ら新労農党結党。新人会、共青へ解消。ナツ改組。プロレタリア科学研究所創立。『プロレタリア科学』創刊。〕

山鹿・古河三樹松・島津末二郎・小池英三ら『ラ・アナルキスト』創刊。左翼劇場第二回公演に「ダントンの死」。『国際文化』四月、五月号に、伊東三郎「エスベラント運動の歴史」。国際文化研究所の外国語夏期大学でエスベラント講習（伊東・中垣・大島・泉ら講師）。日本エスベラント大会で「解放運動犠牲者へのエスベラント図書の差入れ」提案可決。柏木ロンドがこれにあたる。プロレタリア科学研究所にエスベラント研究会（秋田・佐々木・武藤・大栗・伊東・新島ら）。『プロレタリア科学』にエスベラント欄。エドギンテルンの日本組織成立。

一九三〇

〔共産党、武装メーデーなど極左冒険主義におちいる。

全国大衆党成立。河上肇・小岩井浄ら新労農党の解消をとえ除名。全協刷新同盟できる。伊東ら全農左派『農民闘争』を創刊。台湾霧社事件。『戦旗』ナツよりはなれ共産党の合法的啓もう雑誌となる。血盟団事件）

鉄塔書院、『プロレタリア・エスベラント講座』の刊行開始。プロレタリア科学研究所エスベラント研究会、新宿二葉保育園と帝大セツルメントで講習会（大島・中垣）。プロレタリア・エスベラント協会創立。希望社（後藤静香・石黒修ら）エスベラントに進出。

中垣「プロレタリアとエスベラント」（『戦旗』八月号）。秋田「ランティの国際連盟論」（『プロレタリア科学』五月号）。

サート幹部反対派『インテルナツィイスト』創刊。革命的エスベラント文学出版協同組合（エクレロ）設立。

『寡婦マルタ』を田坂具隆が翻案、映画化、「この母を見よ」。

一九三一

〔共産党、政治テーゼ草案発表。関西地方大検挙。全国労農大衆党成立。満州事変。日本労働組合総評議

会結成。日本労働クラブ問題で全労反対派、労働クラブ排撃同盟を結成。全農全国会議結成。金日成、人民武装遊撃隊を組織。反宗教闘争同盟結成。新興仏教青年同盟結成。日本プロレタリア文化連盟（コップ）結成。国粋大衆党・愛郷塾・大日本生産党生まれる）

一月 日本プロレタリア・エスベラント同盟（ボエウ）結成。『プロレタリア・エスベラント』（十月より『カマラード』）創刊。

ソ同盟エスベラント同盟、サートを脱退。国際革命的エスベラント作家協会（イアレウ）結成。

九月 小岩井浄、獄中より共産党推薦で大阪府議に当選。このころ伊東三郎、共産党中央委員候補、農民部長を兼ねる。

ボエウ『プロレタリア歌集』発禁。中垣『メーデー読本』発禁。『プロレタリア・エスベラント講座・第五巻』発禁。『プロレタリア・エスベラント』八月号発禁。

反宗教闘争同盟、エスベラント文でアピール。秋田兩雀「階級文化闘争の武器としてのエスベラント」（『総合プロレタリア芸術講座』第二巻）。

一九三二

（ナチス第一党になる。コミンテルン、三二年テーゼ

発表。三・一五、四・一六合同公判。赤色ギャング事件。社会大衆党成立。全協第一回拡大中央委。コップ内党フラクション一斉検挙。伊東ら全農全会派中央部、および共産党農民部一斉検挙。コップ拡中協、一九八名検挙。労農文化同盟生まれる。唯物論研究会創立。『プロレタリア文学』創刊）

コップ弾圧で、ボエウの書記長塚元周三・川名信一・坂井松太郎・中平孔三らつぎつぎに検挙。

『プロレタリア文学』一月号にエスベラントから翻訳の小説「金属のために」（岡一太訳）。

ボエウ第二回大会、解散させられる。プロレタリア・エスベラント・インタナショナル（IPE）創立され、ボエウも加盟。

労農エスベラント同盟準備会創立。

『カマラード』四号、六号、八号、九号、十号発禁。武藤丸楠編『日本エスベラント学事始』、ズビリドヴィチ「言語学と国際語」出版。

八月 ベルリンでイーベ創立大会。ボエウから非法に派遣された中台一郎密航に失敗。

九月 奈良で長谷川テルら検挙。

一九三三

（ヒトラー政権確立。日本、国際連盟脱退。佐野・鍋

山転向。岩田義道・上田茂樹・小林多喜二虐殺。滝川事件。神兵隊事件。共産党内にいわれる「リンチ事件」。野呂栄太郎・宮本顕治ら検挙）

佐々城松栄・堺・片山・吉野死去。

希望社解散。大島義夫『国際語研究』創刊。

大島・岡・長谷川・中垣ら『エスベラント文学』創刊、同誌、三号発禁。

ドイツで左翼エスベラント運動弾圧。

『カマラード』二月、五月、六月、七・八月号発禁。

ボエウ書記長山中清太郎、そのあと横川誠一検挙。

二月 共産党九州地方委員長長西田信春検挙、虐殺。

八月 秋田雨雀検挙。

一九三四

（共産党多数派結成。全協中央部、党中央と対立。全

評結成。作家同盟、演劇同盟などコップ加盟一〇団体解散。コップ潰滅。大日本国家社会党・勤労日本党結成）

ナチス、エスベラント運動を禁止。

ボエウ神戸支部準備会、ボエウを脱退。ボエウ書記長

岩場正三・大倉斐子ら検挙されボエウ潰滅。のち大倉死亡。

西橋富彦・久山専一郎ら岡山でアミーコ社結成。『ア

ミーコ』創刊、創刊号発禁。斉藤秀一『文字と言語』

創刊。

中原脩司、京都で『テンボ』創刊。クララ会編『佐々

城松栄遺稿集』。

一九三五

（共産党中央部潰滅。多数派中央部潰滅。大阪に中央再建準備会。『労働雑誌』創刊。無政府共産党事件。全評、反ファッショ闘争を決める。『唯物論全書』発刊。天皇機関説排撃）

中塚吉次ら『マルシュ』創刊。栗栖・中塚ら神戸でマ

ーヤ・ロンド結成、米村健ら『マヨ』発行。佐藤

時郎ら名古屋でロンド・タギージョ結成。『アミ

コ』二号、三号、九号、十二号発禁。『マルシュ』

八号、九号発禁。

十二月 大本教第二次弾圧によりエスベラント普及会潰滅。

日本エスベラント学会、野原休一訳『日本書紀』の刊行開始。

ソ同盟でエスベラント運動の弾圧はじまる。

一九三六

（共産党大阪本部事件。二・二六事件、北一輝死刑。

労農無産協議会結成。講座派検挙。全労・総同盟合同。全農への統一と日本主義農民運動。日独防共協定。東方会成立。大日本青年党結成）

五月 『エスベラント文学』廃刊。

七月 『国際語研究』廃刊。

八月 唯物論全書『言語学』（高木弘）。

ドイツエスベラント協会弾圧。サート大会にイーベ代表者出席、統一戦線成らず。

新興仏教青年同盟の行動方針に「エスベラント普及」。

『アミーコ』十四号、十五号、十六号発禁。『サルトン』発禁。

十一月 『マルシュ』、十二月『サルトン』『フラ

ト』『マヨ』、京都プロレス研・北勢エス連など検挙。この事件により中塚吉次・佐藤時郎、執行停止のち死亡。

『労働雑誌』『新興仏教』のグループも検挙。小岩井淨

その他検挙。

十二月 クララ会、エスベラント婦人協会へ解消。

一九三七

（全中国への侵略開始。日本共産主義者団結成。日本無産党結成。人民戦線事件。矢内原事件）

四月 長谷川テル、上海へ。

六月 斉藤秀一『ラティニニゴ』創刊。中垣虎児郎、中国人留学生エスベラントストともに検挙。

『日本評論』八月号に長谷川テル訳「花はいかにして開いたか？」。

十一月 長谷川テル、香港へ。

十二月 野上清・坂井松太郎・栗栖・宝木寛ら検挙。宝木は執行停止後に死亡。

サート創立者、ランティ来日。

服部亨、『獄』（島木健作）を出版。

一九三八

（日中戦争拡大。日本共産主義者団検挙。京浜グループ動く。社大党、皇軍感謝決議。産業報国運動開始。独立作家クラブ解散。唯物論研究会検挙）

二月 長谷川テル、広東退去。香港から対日放送。その後も漢口・重慶で対日放送に活動。

七月 松葉菊延・川崎直一・野島安太郎ら検挙。

九月 日本共産主義者団事件で安賀君子検挙され、のち宮津刑務所で獄死。

十一月 斉藤秀一・加藤隆通・加藤孝一・市原梅喜・小久保寛三ら検挙。のち斉藤・小久保死亡。

エスベラント報国同盟成立。イーベ解体。

このころ河合勇吉、ディミトロフの「人民戦線戦術の

諸問題」をエスベラント訳から重訳。

一九三九

〈第一次京浜グループ検挙。農民組合運動の解体傾向。河合教授問題。東京の学生二〇七名検挙。マドリッド陥落〉

六月 進歩的ローマ字運動に弾圧。高倉輝・大島義夫・鬼頭礼蔵・平井昌夫・黒滝成至ら検挙。

山鹿泰治らスペイン人民戦線支援運動のため検挙。

一九四〇

〈第二次京浜グループ事件で、伊東三郎ら検挙。野坂参三ら延安にて日本人解放連盟を組織。鹿地亘・青山和夫ら重慶で反戦活動。社大党・全国水平社解体。労働組合運動ほとんど全面的に産業報国会運動に解消。津田左右吉起訴。俳句・短歌運動、新劇運動弾圧。キリスト教弾圧〉

三月 福田国太郎死去。

四月 宮崎で皇紀二六〇〇年記念日本エスベラント大会。

七月 中原脩司・野島安太郎検挙。『テンポ』廃刊。

八月 新劇弾圧で秋田雨雀・佐々木孝丸らも検挙。マルタ・ロンド弾圧。

一九四一

〈神山グループ検挙により中台一郎・広瀬仁らも検挙。

企画院事件。ゾルゲ事件により尾崎秀実検挙。太平洋戦争開始とともに全国一斉検挙、大量の予防拘禁〉

九月 徳田六郎検挙。

長谷川テル訳『生きていく兵隊』（石川達三）、長谷川の随筆集『嵐の中からのささやき』重慶にて出版。

野原休一訳『神皇正統記』出版。

一九四二

〈満鉄事件。京大グループ検挙。大日本婦人会創立。東方会解散。その他右翼政党も思想団体に改組）

ザメンホフの家族ほとんど全員がナチスのため逮捕、殺害される。

一九四三

〈中野正剛事件。第二次満鉄事件で守随一検挙。大阪商大事件で阪上睦郎検挙〉

阪上、獄死。京大グループの布施杜生獄死。

八月 石賀修、点呼を拒否。

一九四四

〈横浜事件。『改造』『中央公論』廃刊〉

一月 守随一死亡。

日本エスベラント学会の『ラ・レヴュー・オ・オリエンタ』

四月より休刊。日本エスベラント大会開催不能。

丘浅次郎・相坂信死去。

一九四五

〈日本降伏。治安維持法廃止により共産党合法化。日本社会党結成。読売争議。在日本朝鮮人連盟・自由懇話会・新日本文学会など結成。『近代文学』発刊。〉

長谷川テル著『戦う中国にて』重慶で出版。

十月 『ラ・レヴュー・オ・オリエンタ』復刊。

十一月 日本社会党綱領にエスベラントの学校教育への導入の項あるも、一年後に削除。

十二月 日本エスベラント大会（戦犯追及の提案を葬る）。

一九四六

〈共産党、平和革命のテーゼ決定。総同盟・産別会議結成。生産管理闘争発展。食糧メーデー。日本農民組合・婦人民主クラブ・民主主義科学者協会・民主主義文化連盟結成。インドシナ戦争はじまる〉

春ごろ 長谷川テル、中国東北で死去。

六月 日本エスベラント協会（JEA）結成。『ノー・バ・フロント』創刊。GHQ労働教育顧問マーク・スター来日（産別・総同盟の連合歓迎会でエスベラントであいさつし大島義夫が通訳）。

十二月 ひろし・ぬやま『編笠』。

一九四七

〈社会党内閣。全労連結成。二・一ゼネスト弾圧。新憲法施行。大山郁夫帰国〉

国定教科書（中学一年『国語』）にザメンホフの伝記。四月 世界労連視察団歓迎国民大会にエスベラントの横幕立つ。

五月 共産党、河合勇吉のエスベラントからの重訳『人民戦線戦術の諸問題』を党内資料として出版。

七月 京都人文学園エスベラントを選択科目に採用。

西岡知男・栗栖ら大阪労働者エスベラント会を創立。

一九四八

〈社会党内閣崩壊。労働者農民党結党。全学連結成。産別民主化同盟発足〉

栗栖・宮本ら「エスベラント通信社」を作って『エスベラント通信』を創刊。JEA団体加盟から個人加盟へ改組。

五月 GHQにより禁止されていたエスベラントによる国際通信解禁。

十二月 労働党綱領にエスベラントの公的採用。大本教の人類愛善会再建。

一九四九

（総選挙に共産党進出。いわゆる共社合同運動により社会党・労働党の左派が共産党へ流入。新産別結成。各地に公安条令。下山・三鷹・松川事件。中華人民共和国成立）

一月 秋田、社会党より共産党へ。

八月 第三六回日本エスベラント大会で羽仁五郎講演。

栗栖『同じ太陽が世界を照している』『世界の声』

一九五〇

（コミンフォルム批判。共産党の分派闘争拡大。総評結成。全労連解散。レッドパージ反対闘争。朝鮮戦争はじまる）

二月 大本教のエスベラント普及会再建。

四月 伊東三郎『エスベラントの父ザメンホフ』（岩波新書）。

十月 丸木位里・俊の『ピカドン』エスベラント訳。

十二月 JEA解散。

一九五一

（共産党弾圧。『アカハタ』とその後継紙次々と禁止。

社会党分裂。単独講和と日米安保条約。共産党中央委の一部地下潜入し、椎野悦郎、臨時中央指導部議長に就任）

三月 関西エスベラント連盟（KLEGG）創立。『ラ・モバード』創刊。

九月 『きけわだつみのこえ』のエスベラント抄訳。

第三八回日本エスベラント大会「平和宣言」を採択。

十二月 『長谷川テル著作集』刊行開始。

一九五二

（メーデー事件。『アカハタ』復刊。火災ビン闘争はじまる。破防法。警察予備隊、保安隊に改組。アメリカ水爆実験。京大同学会解散さる）

八月 京大同学会、丸木夫妻の『原爆の図』の絵はがきをエスベラント文解説つきで発行。のちフランス共産党の『リュマニテ』に紹介。

九月 長田新編『原爆の子』の抄訳。第三八回日本エスベラント大会で「平和憲法擁護」「原水爆反対のために被爆資料を各国に送ること」を可決。

十二月 エロシエンコ故郷で死亡。

スターリンの言語学論文の影響により、東欧諸国、ついで中国の運動総くずれになる。

一九五三

（基地反対闘争全国的に激化。スターリン死去。朝鮮休戦。ソ連水爆保有）

三月 『原子病報告』黙ってはいられない』エスベラ

ント編訳。

八月 全倉庫労働組合全国大会など『基地の子』抄訳の基金カンパを可決。世界平和エスベラント運動（MEM）日本支部創立。

一九五四

（憲法擁護国民連合結成。第五福竜丸ビキニの死の灰をあびる。インドシナ休戦。自衛隊発足）

二月 『基地の子』の抄訳刊行。

三月 松川事件のパンフレット『マツカワ』発行。

五月 関西エスベラント大会水爆実験反対を決議、アメリカ大統領に送る。

八月 エスベラント婦人協会『日本の貞操』。

九月 第四一回日本エスベラント大会で原水爆実験反対のためエスベラントを使用して戦うことを可決。

十月 『妻の屍を抱いて』のエスベラント訳出版。

十二月 長谷川テル著・高杉一郎訳『嵐のなかのささやき』。

一九五五

（共産党六全協。社会党統一。保守合同。原水禁世界大会。砂川事件）

平凡社、エスベラントの活用を中心においた『世界の子ども』全一五巻の刊行をはじめる。

五月 前年度日本大会の決議による『死の灰』出版。この年より、ソ連、東欧諸国の運動が復活しはじめる。

一九五六

（スターリン批判はじまるも不徹底。コミンフォルム解散。日ソ国交回復。共産党内に宮本顕治の指導権確立しはじめる。ハンガリー事件。新教委法。日本の国連加盟）

一月 高杉一郎『盲目の詩人エロシエンコ』。

十二月 瀬長亀次郎那覇市長に当選。

一九五七

（労働党解党。主力は社会党へ復党。イギリスの水爆実験。ソ連人工衛星打上げに成功）

四月 関西エスベラント大会、原水爆反対を決議、大会の名でイギリス首相に抗議。ハンガリー動乱に苦しむエスベランチストのための救援金募集を開始。

七月 モスクワの世界青年学生平和友好祭に日本学生エスベランチスト連盟の代表、パンフレット『日本の学生から』を大量に持って参加。

十一月 関西で『マルシュ』復刻を開始。瀬長、アメリカ軍当局により那覇市長追放。

一九五八

（動評反対闘争。警職法反対闘争。全学連内部の主流

派、共産党と対立をはじめ。国際的に修正主義論争はじまる。

三月 『妻の屍を抱いて』のベトナム語訳、国立出版所より発行。東西両ドイツでの別々の翻訳、ハンガリー・ポーランド・リトワニア・ブルガリア語訳など相つぐ。

一九五九

(キューバ革命。安保改定阻止国民会議。社会党右派脱党して民社党へ結集)

二月 小岩井浄死去。

五月 山口仙二『美しき平和を』エスベラント訳。

八月 エスベラント訳シナリオ『千羽鶴』を原水爆禁止世界大会の外国人参加者へ配布。

九月 高杉一郎編『エロシエンコ全集』全三巻刊行開始。

平壤からエスベラント放送はじまる。

一九六〇

(安保反対闘争、連日国会を包囲、樺美智子死亡。三池闘争。高度成長政策。浅沼稻次郎暗殺。南ベトナム解放民族戦線結成)

三月 土岐善磨・高杉一郎ら中国文字改革視察団訪中。

十二月 山鹿、戦争抵抗者インター第十回大会(インド)に参加、エスベラントで演説。

一九六一

(原水協分裂。構造改革論争はじまる)

三月 日本で開催のアジア・アフリカ作家会議に、巴金・葉君健らのエスベランチストも参加。東京のエスベランチストと交歓。

一九六二

(公明党結成。春日庄次郎らの構造改革派脱党。キューバ危機)

五月 秋田雨雀死亡。

M E M日本支部ベトナム支援活動に積極的に働きはじめる。このころより反体制的エスベラント運動の鈍化はじまる。

一九六三

(部分核実験停止条約。松川事件被告全員無罪確定。全労連分裂)

八月 関西連盟招待により第五〇回日本エスベラント大会参加の中国代表団、香港まで来たが、日本政府の妨害により来日をさまたげられる。

中華世界語者協会、部分核停条約問題によりM E M脱退。

一九六四

(中国核実験。四・一七ゼネスト不発に終わり、共産党中央部の責任が問題化する。オリンピック、日本で開催。日共、ソ連共産党との対立はじまり、志賀義雄ら『日本のこえ』を作る)

五月 エスベラント訳『日本国憲法』発行。

十一月 北京放送局エスベラント放送を開始。

一九六五

(日韓条約反対闘争。北爆はじまる。ベ平連発足。日共、中国共産党と論争をはじめ)

『日本共産党中央委員会よりソ連共産党中央委員会への返書』のエスベラント訳、中国外文出版社より発行。

八月 第五〇回世界エスベラント大会が東京で、第二一回国際青年エスベラント大会が天津で開催される。中国代表団来日不能。

十二月 『トー・ハウ——ベトナムの若い母』

一九六六

(大学紛争続出。日共、自主独立路線をとると発表。中国のプロレタリア文化大革命はじまる)

『文学』二月号に高杉一郎「日中エスベラント交流史の試み」。

九月 ベトナム平和エスベラント・センター大阪で発足。『ベトナムに平和を』創刊。

十一月 社会党学制改革試案に「エスベラントを義務教育にする」。

一九六七

(美濃部亮吉東京都知事に当選。佐藤首相訪米反対闘争)

一月 南ベトナムの抵抗小説集『炎のなかで』

六月 ベトナムの小説『袋小路』

十月 ロシア革命五〇周年を契機にして、藤城謙三ら『国家と革命』のエスベラント訳復刻。

十一月 由比忠之進焼身抗議。大阪・東京・名古屋・福岡・姫路などで追悼集会。『ラ・モバード』の提唱によりこれ以後毎年、各地で由比祭が行なわれる。

一九六八

(パリ和平会議。チェコ事件。フランスの学生運動暴動化。エンタープライズ寄港阻止闘争。東大・日大を焦点とする全共闘運動)

一月 由比忠之進「ジョンソン大統領への抗議文」『世界』。M・リースの英訳各方面に配布される。

七月 由比忠之進抄訳『原爆体験記』

八月 『プロレタリア・エスベラント講座』復刻。

十二月 『最後の高地』。

一九六九

(大学紛争しだいに下火となる)

二月 利根光一『テルの生涯』。

三月 伊東三郎死去。

八月 小坂猪二死去。

一九七〇

(安保反対闘争。公害反対闘争市民運動の形で全国的にひろがり始める。学園闘争は高校段階に移る)

七月 『戦場の村』のエスベラント抄訳。

八月 佐々木孝丸、第五七回日本エスベラント大会

(高槻)で明石順三ら灯台社事件のことを引用して、「たとえザメンホフにだまされたとしても」と講演。

十二月 山鹿泰治死去。

一九七一

(中米、日中間の緊張緩和の方向へ向かう)

中国外文出版社『毛沢東選集』のエスベラント訳刊行開始。

十一月 中垣虎児郎、沼津の解放運動老人ホームで死去。エスベラントで歌うインタナショナルのうちに

出棺。

一九七二

(連合赤軍事件。沖縄「返還」。ニクソン訪中、田中訪

中。日共創立五〇周年。テルアビブ乱射事件)

ドレーゼン原著『エスベラント運動の分析的歴史』大阪で復刻。

一九七三

(アラブ・イスラエル戦争激化。世界的石油飢饉問題。狂乱物価時代)

七月 長崎の原爆読本『雲になって消えた』を九州エスベラント連盟が翻訳出版。

八月 第六〇回日本エスベラント大会に葉嶺士ら三名の中国エスベラント連盟の代表参加。日本などからの資金カンパによりベトナムの代表団、第五八回世界エスベラント大会(ベオグラード)に参加。

リンス著『危険な言語』(エスベラント迫害の歴史)京都で発行。

一九七四

(田中内閣の支持率二〇パーセント台となる。日本最初のゼネストとしての国民春闘。蜷川知事七選)

四月 八名の日本エスベラントリスト訪中団中国各地を訪問。

五月 向井孝『山鹿泰治・人とその生涯』

(高野 森雄 編)

あとがき

若いエスベラントリスト、あるいは、これからエスベラントを学ぼうとする人たちが、まず知リたが、ることは、エスベラントで何ができるか、何ができたか、何ができなかったか、ということである。平和、平和、と平和の時代にさわぎ回っているのはやさしいが、そういうエスベラントリストそのものが戦争中はどうしていたのだろうか、という形での素朴な疑問である。

また、わたしたちがたまたま旧友に会えば、話しかけられる内容はきまって次のとおりである。いまだどうしているかね。ホホウ、やっぱりエスベラントをやっているんかい。

この旧友たちの相当部分は、今では革新政党や民主的な団体の最高幹部、またはその下っぱに属していたり属していなかったりするものであるが、かれらのエスベラントに対する、いや、言語問題一般に対する認識の程度といえ、せいぜい、『プロレタリア・エスベラント講座』の第一巻だけを買って……という域を出ていない。言いかえれば、かれらの所属する党なり何なりは、その言語政策をそのあるべきはずの姿において持っていないのである。

反体制的な日本のエスベラントリストの一群、それはいわばアウトサイダー中のアウトサイダーとも言うべき存在であるかも知れないが、そのかれら——筆者たちをふくめて——が何をやったか、また、何をやらなかったか、という記録が本書である。その意味で、本書は、革新諸党の言語政策樹立のための手引ともいう意味をもこめて書かれている。また、逆に言えば、今後筆者たちが、自らが、

それとも後進の人びとを激励してか、「世界の」それを書き上げる任務を自らに課したことになる。

本文中にも言っているように、エスペラントはコトバである。それがコトバであるかぎり、いかなる人によっても使用されるのが当然である。日本のエスペラント運動も当然のこととして、反体制的な仕事だけではなく、すこぶる体制的な側面をも持っている。この意味で、本書は日本エスペラント運動史を全面的に語るものではない。この仕事もまた次の課題として残されている。

本書中の引用文、とくに検察当局や北一輝の著書のものなどは、平がな普通文に書きかえてある。読者の便をはかったためである。ぜひとも原文をと望まれる方は、出典を明記してあるから、それぞれの原文にあたってもらいたい。

人によっては言うこともある。本年四月に入ってから大本教関係エスペランティストの訪中その他の動きをもって、「体制的な、あまりにも体制的な」という本書中の小見出しに代表される評価に異議をとなえることなども、そのひとつであろう。しかし真実を求める人間にとっては問題は明らかなことである。もしも大本教がこうした動きを、今から十数年も前に示していたのであれば、また紅世教や白系ロシア軍のアタマン・セミョノフなどとの過去の関連などの完全な自己批判の上に立ってのことなれば、こうした現在の動きそのものも「体制的」と評価されることはなかったはずである。この教団がその行動をもってして、本書の所説を他日全面的に書きかえることになれば、筆者たちの喜びはこれにすぎるものはない。

本書のための資料としては、筆者たちの所蔵するもののほかには、エスペラント関係では関西エス

ペラント連盟の所蔵品や東海林信行君を通じて財団法人日本エスペラント学会書庫のものを、社会主義運動一般については和歌山大学経済短期大学の殿井一郎教授を通じて同大学経済学部図書館所蔵のものを利用させていただいた。近代文学館や国会図書館の資料をあまり多くのコピーを作り、また年表作成の任にあたってくれたのは高野森雄君である。いろいろな質問に応じてくださった荒畑寒村・山崎一雄・新明正道らの諸先生、心苦しくも結果において裏切ることになった重栖度哉君の好意をも特記したい。その他、ここにあげないたくさんの方がたにも。

なぜだか知らないが、こうした場合、最後にあげることになっているらしい出版社の方がた、三省堂出版部の渡辺忠治、武井美子のおふたりには特別のお礼を。この方たちがいなければ、このいささか風変わりとも思える本が日の目を見ることはなかったはずである。

一九七四年六月

著 者

本書を読んでエスペラントについて関心を抱かれた方は左記へ照会されたい。

113 東京都文京区本郷二丁目二ノ一四

日本エスペラント学会 電話(〇三)八一四一四五八一

561 豊中市曾根東町一ノ一ノ四六ノ二〇四 コポリマンション

関西エスペラント連盟 電話(〇六)八四一一一九二八

大島義夫（おおしま よしお）

1905年、東京都生まれ。早稲田大学政治経済学部卒業。
現在、財団法人日本エスベラント学会理事・エスベラ
ント運動史研究会会員。著書『エスベラント四週間』
（大学書林）、『新エスベラント講座』（要文社）ほか。
現住所 東京都杉並区松ノ木3-3-15

宮本正男（みやもと まさお）

1913年、和歌山県生まれ。小学校卒。1929年より、労
働運動・青年運動に加わる。一等兵として沖縄本島で
敗戦を迎える。戦後エスベラント運動に従事。現在、
関西エスベラント連盟顧問・SAT 文学委員会委員・
エスベラント運動史研究会会員。
現住所 大阪市東淀川区北大道町1-11 CB3-6



反体制エスベラント運動史

SANSEIDO BOOKS 44

〔昭和49年7月25日 初版発行〕

第1刷

著者◎	大島義夫
発行者	株式会社三省堂 代表者 亀井要
発行所	株式会社三省堂 東京都千代田区神田神保町1の1 電話 東京(293) 3441 (大代表) 振替口座 東京 54300

石垣綾子著

さらばわがアメリカ
—自由と抑圧の25年—

自由を求めて日本脱出以来25年、一女性がとらえた、民主主義とファシズムの交錯する、自由と暗黒の国アメリカの素顔。本書は、著者の貴重なその体験記録である。

小原秀雄
動物の科学
研究会共著野生を
さぐる 日本の動物事典

今や野生動物は消え去ろうとしている。本書は、日本の代表的野生動物と、その生息地を選択し、ルポふうにつづった動物事典であるとともにその案内書でもある。

岡島八重子
岡島重俊あの子は帰らない
—遺書に語りかける母の手記—

激化する受験競争のただなかで、みずから生を断った一高校生ノ本書は、亡き子の遺稿と、はじめてその意味を知った母の手記の、珠玉の対話集である。

ジャーク・
ブズー著
平山 卓訳わたしのニッポン発見
—フランス人のアジア像—

日本人はなぜ日本人論に熱中するのだろうか？アジアに精通し、長く東京に住むフランス人歴史地理研究家が、日本人特有の考え方・暮らし方を、鋭い観察眼で描く。

小原秀雄
動物の科学
研究会共著野生を
さぐる 世界の動物事典

アメリカのライオンからオーストラリアのユアラまで、世界の代表的な動物たちを現地にたずね、大自然と野生動物の魅力へと案内する。読み物としてもユニークな書。

上笙 郎著

日本のわらべ唄
—民族の幼なごころ—

失われゆく幼なごころのしらべを惜しみ、日本の代表的わらべ唄を選んで、児童文学研究と民俗学の二つの視点から光をあて、民俗の心のふるさとをの扉を開く好著。

もうさわ
よつこ著わわしい女たち
—狂言・御伽草子にみる庶民像—

「わわしい」とは、男への隷属に反抗した女に、男が冠した形容詞。下剋上、戦乱の中世期、庶民のバイタリティあふれる女性像を、狂言・御伽草子のなかに探る。

青木晴夫著

滅びゆくことばを追って
—インディアン文化への挽歌—

ネズバーズはアメリカ・インディアンの一部族である。彼らと生活をともにし、滅びゆくことばを通してインディアン文化とその歴史を発掘した言語学者の体験録。

原田勝正
青木栄一
共著日本の鉄道
—100年の歩みから—

創業以来100年。国鉄・私鉄を含め日本全体の鉄道の歩みを、政策・技術、地域社会・都市、他の交通手段など、あらゆる角度からながめ、その未来像を探る。

外山滋比古
著伝達の美学
—「受け手」の可能性—

マスコミにおける消費者に受け手こそ未来の文化をになう。従来見すごされてきた受け手にスポットをあて、その創造性・可能性を探ったマスコミ論・現代文化論。

小川圭治
ほか著

日本人とキリスト教

キリスト教と日本の近代化、ことにキリスト教の日本の変質の過程を、社会・経済・文学・思想・人物論よりみごとに解明した。ユニークな日本人論としても好評。

富山妙子著

女への讃歌
—われらの解放—

それぞれユニークな個性と体験をもつ13人の女性たちが、新しい輝く女性像を求めて、「家」・愛・母性・職業について真摯にかつ熱烈に語り合った対話と討論集。

朴 寿南著

朝鮮・ヒロシマ・半日本人
—わたしの旅の記録—

広島に原子爆弾がサク裂したとき、そこには数多くの朝鮮人がいた。「在日朝鮮人」と「原爆被災」という二重の苦悩を負わされた人々が、初めてその体験を語る。

多摩の女を
綴る会著

多摩のおんな
—手づくりの現代史—

はじめてペンを持った11人の主婦が綴るユニークな多摩の女性史。移り変わる郷土の暮らし、そこに生まれ死んだ無名の女たちの哀歓——ここに生きた現代史がある。

本田正次著

私の植物紀行

「植物を学び植物に学べ」——本書はそのことばどおり、各地のさまざまな植物との触れ合いの中から生まれ、植物への深い愛情と憧憬が結実した紀行随筆集である。

武田 明
編著

日本の化かし話百選

全国至るところにある狐や狸の化かし話を採録した本書は、軽妙なさし絵と相まって、人間が野生の動物たちとともに暮らしていた時代へと読者を誘う興味深い好著。

池原昭治絵

—狐・狸・河童—

津村光信著

石油新時代
—国際石油戦争と日本—

第4次中東戦争は、石油危機が現実に取り得ることを証明した。国際石油資本、消費国中心から産油国主導型へと激変した世界の石油事情を克明に分析した好評の書。

宮川やすえ
編

朝倉 摂絵

ソビエト昔話選

15の共和国、大小126の民族をかかえる現在のソビエト。その膨大で、特色ある民話の宝庫の中から33編を精選。風土、歴史が生んだ民衆のたくましさ伝える楽しい物語。